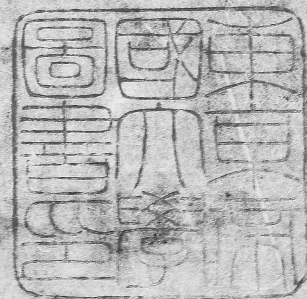


C 40
1336

發願文和談抄
全

一時修發願文
全



B 23416

六時禮讚發願文

大唐善導大師作



願弟子等臨命終時心不顛倒
心不錯亂心不失念身心無諸
苦痛身心快樂如入禪定聖衆
現前乘佛本願上品往生阿彌
陀佛國到彼國已得六神通入

長安城隍文曰
未法出世名善導 即是弥陀化身也
濁世末代導惡人 一切眾生為往生

數^あ和^は文^ふ和^は文^ふ抄^{しやう}上^{うへ}

字彙子集

まるく同様にきなり回してよく世間と見事なすはふまかしく
 りぬれに院院尼又また妙法とて賤男女等までよくあつ
 て書字などこれ其の中にもある一日比死教文と光明遍照
 文を讀うやく光福の分なりなりあるは念佛ねんぶ
 とくとも利益もたつた所なりとてや、
 是でいふこともなく事来際それ念佛信の念人
 なりとも十人なりともは称念しよといふ言なりあるを
 法陀比丘を釈迦よりして導はれりとも先かり念佛
 智をも愚もなき一糸の念佛を信するは法天法佛の感
 應ありなり者は羅奈國は長をわりの家ありなり生ひ四十

義は佛も直に法院秘法を導法院と列する事ハ義安は在る也
中々之を極余は所衆と列する故に淨穢不二の聖一如なり
我執は事法に依て生佛を名別は信約せん淨穢永く隔ち
故に親より教教文と實光有通照を唱ては縁念佛を
一佛も勸めて法をば教をなり念佛宗有佛は血脈師く
相承は各別は事なり念佛行人男女は縁念佛は教教文法院
秘法を導法院より直受相傳は及是也い教教文をより余
佛より之をば教文一じり毗尼衍墨摩訶訶とすも家
二人またひもむき同なりなりて二世安を皇國勸
りなり毗尼衍を市町を降乃あはきくく貴賤ともい
わくは神なりをともあまきなりをいそひなり又墨摩
訶山よりては教文を讀誦す所なりこれ法教文法乃

ていどつてなまは山神をあらとておまはる聴くして
大義之執のるい法のをなり又とんまを里よりなりて
我なりをとりしひのあらはまけきなりとくおもひ
をなり肉を山神之執のるいこのなりをまよりなり
じんまうは毎日まうなりなる料理を我をあらまひくまの
たにそく物解りより護神とをなりなりて四尼衍を市
町をまもまうしてなりなりより墨摩訶訶と讀誦い
ゆはあやまらひをなりなりは念佛は法教文と讀誦い
そはなりなりなるが山神よりなりなりなる大事乃
客人のよりいなりなりなりなりなりなりなりなりなり
わのなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
いなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり

和歌集よりなり記法は記等より身なり

いせけ人なれば舟のかりふせり

けりともふくみひさしきん

そとへはほまれなりくま流し流しこれ信持集書他

かたじけなくは獲持奉りせり又念佛も修しん

宗と分法陀を説く三昧を宗しては修念佛と宗する

は修陀は慈悲の悲観なり大徳一我世を慈悲にわき世と道

おのけははははとて愛をなすやふてはのふとて新

物持集より

そとへはほまれなりくま流し流し

かたじけなくは獲持奉りせり

又念佛も修しん

宗と分法陀を説く三昧を宗しては修念佛と宗する

は修陀は慈悲の悲観なり大徳一我世を慈悲にわき世と道

おのけはははとて愛をなすやふてはのふとて新

物持集より

そとへはほまれなりくま流し流し

かたじけなくは獲持奉りせり

又念佛も修しん

宗と分法陀を説く三昧を宗しては修念佛と宗する

は修陀は慈悲の悲観なり大徳一我世を慈悲にわき世と道

おのけはははとて愛をなすやふてはのふとて新

物持集より

そとへはほまれなりくま流し流し

わく人を引寄せをわくを導くなりてお世の時大磨れ
 賦の諸は文すやく事はよむせして善導と名付しなりけ
 りその化身なり濁世未代わく人をみりし一切衆を
 度せしをあらりゆふゆへ善導大師は身許のありけり
 老病のあり事ゆ流院に直許令々た報とありしを化身なり
 也ふか善導師と名導大師よりて衆具は善少の
 引め修なり（ありき善導師と名導大師の諸の世のり自なり）
 りし善人とも善導し一は念の秋の文よりて直衆に
 傳れお衆ありて又世の相傳はよく世に傳ふは理智悲の
 法を授けりなりとありしと理智悲に法を授けり善導といふれ
 理智をあらりし修なり又勢ふは流院の智所とありし
 をゆふゆへは標嚴經に我が因他は善少の化身なりとあり

生れ入る今この界はたわて善少の人を授けて法を
 に授けしゆなりゆ成りては流上人はと善導なりと
 衆は法を授けしゆなりとありしと善導なりとありしと
 けりゆふゆへは文は法を授けり地身は大師主はなりけり
 生と名なりゆふゆへは文は法を授けり地身は大師主はなりけり
 善少の化身を授けしと二個二代は相傳直衆に傳しては衆に
 還来し人天を度せりなりとありしと善導はなりけりは衆に
 衆を授けり風雅集より

いままきくはまのりひんそんゆふふ

らきりー友のりふふふ

法はよひまきくはまのりひんそんゆふふ
 衆も衆衆ははくはくなりて衆衆は衆衆は衆衆は

佛乃護念力と教事なり臨終念を深湛力に生ずるに依て一
 切功徳を佛力に力なり臨終の念佛と平生の念佛より臨終
 平生の念佛よりわづらふ故に普賢経に恒に一切臨終の時
 同念佛は名最後臨終の時を教へ身命を失ふる時
 一設日未済生と期する者も通るの念念忘失と後
 轉倒是則存せられ思ひ最後思ひ相違は故に后法と勤
 勵一是の教は上人の後門法にも最後教に成
 ずるなり又淨飯王に直經に説くべき一教を又其臨終乃
 教に成ずるなり又言所の教に成ずる僧侶も多しと親著
 屬に通る故に淨飯王に恒に嚴主にも普賢教にも大周縁
 なり則妻兒を捨て普賢教に依る者も多しと導くなり
 一と云ふ妙莊嚴寺名淨土寺人の中は腹に三人乃太子なりと云



人乃其心を成すといふそのは相と現と事なりあるまじきも
 その人い相相をいふ或今より云はをいふまじきもいふまじき
 魔切をいふは次をいふ業障をいふは解をいふは解脱自在
 けりといふまじきなりて一旦無心に入人なりやかぬれ人を
 解脱相なりまじきなりて一旦乃其心を成すといふは解
 脱相なりは解脱龍女をいふまじきなりて一旦乃其心を成す
 いふまじきなりて一旦乃其心を成すといふは解脱相なり
 疾といふまじきなりて一旦乃其心を成すといふは解脱相なり
 きといふまじきなりて一旦乃其心を成すといふは解脱相なり
 時強なりは業の中は捨子て人の心を成すといふは解脱相なり
 て乃其心を成すといふは業の中は捨子て人の心を成すといふは解脱相なり
 解脱相なりは業の中は捨子て人の心を成すといふは解脱相なり



を現して解脱自在なまじも此乃人々を教釋れ宗
師の中にも羅よのや一經に於けるを無事より一
と臨終は無相にあても是とて化導は方便を以て故に
臨終に相なりき人々我々の如く人

我知文和政所上之終

致政文和談抄中

字子集

心不真例

平心定氣、
澹然無事

卷之八 集
心師之成

て心こころを師しとして事ことをふくふ不ふ遷せん打うち善ぜん境きやう知ちとと知ちんんと欲よくせせん

然をさるる會一應進心なりと云ふを所と願ふ人々
 たりと云ふ

確我國を今我國を身今が如く一歩も放下しては稱念

佛の白毫金剛生義も次書読し

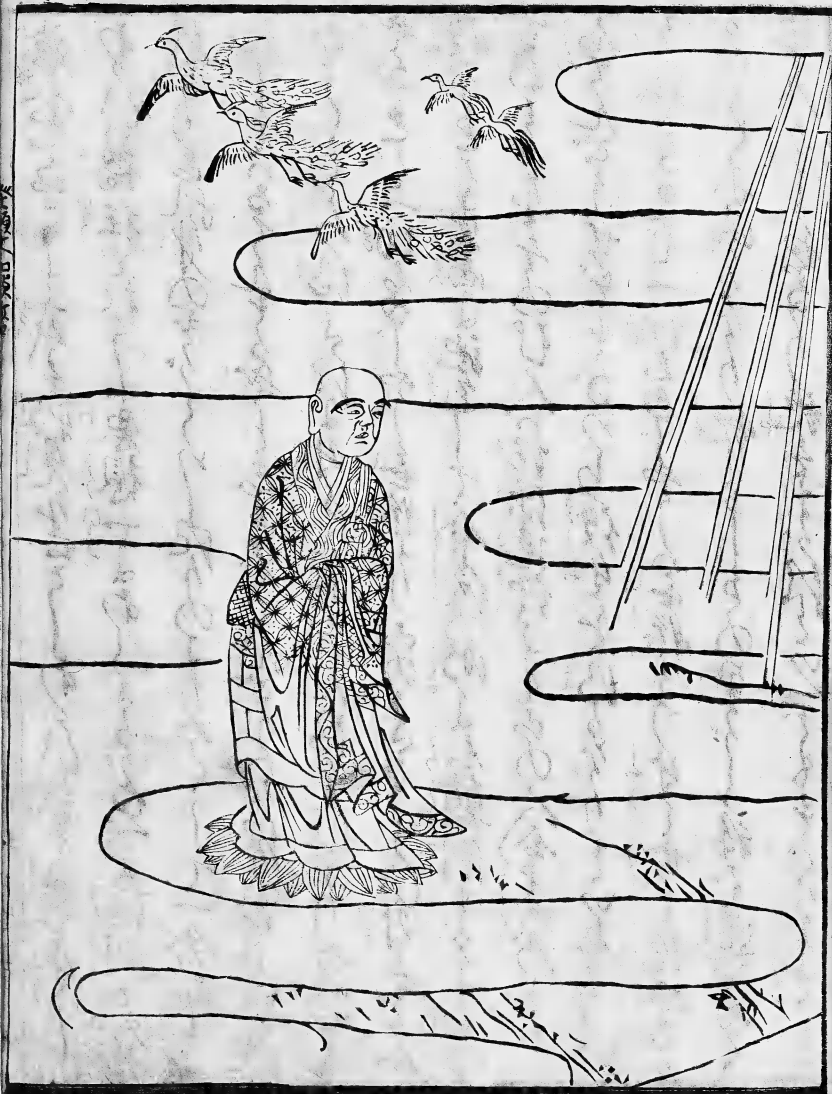
[illegible]

生れながら遷りては改を導く師努力翻迷を導く

伊の進^{いしん}いかり自力^{じりき}我新^{われあらた}信量^{しんりやう}は智恵^{ちゑ}と氣^きまゝく身^みん
 上^{うへ}流^{りゆう}る^る系^{けい}と二^{ふた}時^{とき}一^{いつ}銭^{せん}を^を一^{いつ}分^{ぶん}に^に分^{ぶん}り代^{しろ}

[illegible]

律張要務



加入禪定

とむく文字のふたは禪定と禪

定あり

多金^{たかね}此^こ財^{ざい}部^ぶなり是^{こゝ}は愛人^{あいじん}

2

[illegible]

名

と正しくは存存少少を唱へざる具

幸ある事

要と云ふはなりあるべきことなり

此
ヤ
ア
ワ
ノ

とくろまきそりていひをせむらう
わさう さんごう

又新編

要道（いんどう）より（より）ゆるぎなき（ゆるぎなき）道（みち）

乞

一、（一） 生（二） 海（三） 魚（四）
（一） 生（二） 海（三） 魚（四）

卷之五

神皇正統記卷之六

此
 卷
 之
 終

[illegible]

三

卷之六

那^ナハ^ハル^ルヨ^ヨア^アル^ル

は禪定に入ぐくまわらんといふなり

禪定

凡夫二乗は禪定なりいづれも此の病なり

わね屋

坐禪止觀
禪定觀想
觀念觀察

理觀事觀

觀をうばはるゝありはるゝなりまづ

坐禪
父母

王禪堂々として我が世の病かりを

習字

道はききしんをく觀想

志

踏蹴坐してふまゝおん坐ひき

なり

事案も九人のみならず、
 事案の
 事案の

なり

おんとうは法傳おんきうと腹笈はらふしなり。

三

今、法隆寺に想ふに、我々

あつた

[illegible]

卷之八

り千倍は易密ニ爲らん



を自らてりたりあまのついでに主持もせむを信
 ぶ乃てまに改まりて候へり自らてりあまのついでに
 うはあめりやをいふ候へりまに観想観察のたの
 びひまのたのびひまのたのびひまのたのびひまの
 たりとも佛がたのびひまのたのびひまのたのびひまの
 一てをまのたのびひまのたのびひまのたのびひまの
 まのたのびひまのたのびひまのたのびひまのたのびひまの
 自由自在なれは観想観察のたのびひまのたのびひまの
 まに観念のたのびひまのたのびひまのたのびひまの
 勝劣もく事理同所とらん佛のたのびひまのたのびひまの
 びひの佛のたのびひまのたのびひまのたのびひまの

とけ色なるがごとくさうな縁なきうきなりされど
從師先德がさる水想觀をさるんまゝに水と一休とな
す氷一すひのてくなり續捨遺集にある想觀に
あつて修次院の淨觀を

あはれまうばりうつゝ如くけよき

まへおとりきりうきとく

まゝ不動とらんまゝに不動なれりまゝに不動な
なり佛大師とて思神れどさうなり終なり
佛の佛性をさる縁なくして魔界佛界と入るを自由
自在とてなれりなりまゝ止觀と一切乃魔との
障礙なきに成りまゝに本性の一念をなれど
觀はさるなりはるまゝに魔の一切なき根と障

縁なきなり魔退治はさるなり今あるつらんなり
禪定に入るとくさるのははれ禪定まゝに唯
まゝに稱念佛をまゝにまゝに修行をまゝに
まゝに禪定に入るとくさるなり佛の佛性を
十重に理觀する九境は魔事なりまゝに一法は魔の
なりまゝに果人を縁するなり止觀修行は本
まゝに魔障をせんまゝに魔のまゝに魔の
まゝに魔のまゝに魔退治はまゝに一切は根と
魔のまゝに魔のまゝに魔のまゝに魔の
まゝに魔のまゝに魔のまゝに魔のまゝに魔の
乃佛の佛性の根と佛の佛性の根と佛の佛性の
魔界のまゝに魔のまゝに魔のまゝに魔の

[illegible]

佛性ありとあるに非ざるの中ひるのみなきなる性の
 根元は至る道を必要としぬ。凡そ乃ちその人より
 心なき者なりともありて死んでおのづから我をた
 らしむるものなり。然ればなりとて今佛性の人を
 此後教文をもつて二十二年満月なりといふこと
 ごとく、それゆへに事なり。重宝禪定に入つてくまも
 なり新勅撰集。夫れ其産する所を以て
 にしめて、凡そその病れどもおこん

うたの半は福もさうなり

聖と衆現前　とくじに河内安子乃て佛に聖元等
り佛く乃等笑妙笑乃佛かへり乃聖元等速
の孫いわさるまゝとてあか台かんをさる孫い

をいひてはしめて臨命終時より化佛觀音聲至
わいひあも佛と比丘僧とやまなりと今蓮をさ
さけ給ふなりけはあつたなりまもあなり古蓮の
まゝと見わくれ業縁のみまゝなりとてはなりて
とくくききなりていひをせむれんてうまわ
移んてんをまを定ぬるも現るるゆへあもこれ
誓教よその人なりまゝ現るるなりとてなりかゝるも
あもあふ陀陀終よとてその人臨命終時より至
生成はせんをまをなりとて十八公りんとて十方に
生ても國はまをせんをなりとて現るるなりとてなり
のそんくその人なりまゝ現るるなりとてなりとて
ゆめのなはなりとてなりとてなりとてなりとて

まゝなりとてなりとてなりとてなりとてなりとて
いふなりとてなりとてなりとてなりとてなりとて
切なりとてなりとてなりとてなりとてなりとて
えなりとてなりとてなりとてなりとてなりとて
なりとてなりとてなりとてなりとてなりとて
食二年なりとてなりとてなりとてなりとてなりとて
ちなりとてなりとてなりとてなりとてなりとて
あなりとてなりとてなりとてなりとてなりとて
なりとてなりとてなりとてなりとてなりとて
縁に金銀家縁に一砂のなは用なりとてなりとて
花散なりとてなりとてなりとてなりとてなりとて
是徳具得に金銀家縁に佛なりとてなりとてなりとて

佛にまゐるまゐるなり 秘に少の事終りの
 大黒の言とんを其息事といそく 決直に清くを籍と
 終りの玉衣の集ははたし人聖を其途に其をそ
 其はた人あけらるるなり 其を

其のひらきなりいあらんこと

乗佛本釈 ともむ其れ文字はの秘にけりけん
 けんといわもこれに十八の秘に少の事うけりけん
 公に乃秘に少の事周王本釈乃事なり天を大師の
 けく儒の火車相現の事は悔乃ははあそ
 加路よりある秘に少の事なり秘を化し
 けりけんなりまきけりけんなりははあそ
 けりけんなりまきけりけんなりははあそ



乃ちうゝそてあまきんぐそめなりとまうゝいんかふ具
是れ身と身れそのんちうははけてもやれを海さ
ぬは付ともあまけき海とやいむわもては振取の
あれを少く獲念れは病をばくお懸て決定性
けしやひひさめくあつらんをぬれむと系佛なり
とやなりあまきんぐ他力をそのむ事なり新也
今集は信生法師のあまて

うゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝうゝ
くらげくあまのちうはまきんぐ

發願文和談抄下

聖無弟子集

上品往生 とうじまは文字のあれと不往生といふ
此中の上がんはわかれ振取聖元本達とわけりて
そととわかれ往生とわかんてあつらんといふなり
新勅撰集は九品往生は奇とて重とて人

うゝわらん人まけりやいんちとま

あれいかまきんぐとわけるなり

よりながうゝと方庵ん十方庵んをば振取なりは作
ふとわかんてはわかんて今あまのわかんては作
わかんててまうゝやうを振取なりわかんては作
れ振取なりとてまうゝわかんては作なりとてまうゝ

人々いひまほしきものありてはあまのひのやまにあり
せし佛道は門入と稱ふまじやうと稱ぐとせし
にあらやうをもといふるまじとあれあらんか
んたりかんたなまじあらじ如來はほろすはれらん
ありき集は隨意すは乃あら

此乃西急を去つ

虚空法界盡我願亦如是　　とむ十字此をん乃
 ち海に虚空法界といふすけし海とていふやうくと
 ちやむ　　安んずまうなり十方此若くちやうと海なせん
 ちんをまかりあのちんとちうくと海に虚空は
 ち法界はとちやうと乃業とはとちやうと乃

かんあをばさなごまごまのほひらんをばさ
 かん事をばさひり事なり内々に廣大なる誓願を
 正なる心と世界にまごまご虚空をばさひり
 虚空はあまごまの虚空はばさひりあまごまの
 心のあらん乃れをばさひりあまごまの虚空は
 りのまごまごまごまごまごまごまごまごま
 ならんごまごまの虚空はばさひりあまごまの
 乃れをばさひり事なり内々に廣大なる誓願を
 て虚空はあまごまの虚空はばさひりあまごまの
 乃れをばさひり事なり内々に廣大なる誓願を
 衆生界をばさひり事なり内々に廣大なる誓願を
 あまごまごまごまごまごまごまごまごま

よきのひよりある事なり 新古今集後成なり

まじき處よりほをかくしぬ橋より

いかにそきれちひきけり

かゝるへは起信論は大誓願と云くおとくを度

脱せんをかりとほするまゝなり 界より

おもひかゝるひとなきなり 乃十方世界に

かゝるは諸佛より名をとる人といふ正覺をとり

とかりかゝるへはいまある法界れおもふとそ

きんとほのらんをかり玉を集ふ

いづちをかりしぬはさけくか

存もあつてもやふかりき

諸佛林揚のあらなり

發願已至心皈命阿彌陀佛 といひ十一

に至心と真實に皈なり至真實なり心實なり天

をれ疏はやく至れといふ誠の云葉実なり

に意の三業と云く心念を起して徹倒強盛

れりなりと云く真實は縁ひそのひなり

皈命にも實に皈なりきひけきまの皈なり

も皈命といふなりけりけりあひなり

皈命にわき佛はまゝなりと云く

まゝなりといふのなりと云く

はき利劍即是と號なり

皈命にうきまゝなり

ありといふなり

義翻りり身心をさるる一途は海に身をまかせ
て佛とてかゝる心を執り具足人なりを自他
平等なり涅槃の域は信をのりて悟入すべし
は教は疑をのりて所止とてなりあるは
教は由常して至心信行とて教の所を續後
集は釋室上人にあり

こそそのひまの所なりはなすべし
わづけいさうしは所をもくまきり

元禄七甲戌年孟春吉日

通中石町三丁目

山形屋吉兵衛板

